

多様性を取り入れた持続可能な町内会活動に係る事例紹介・交流会

みんなで育てる 未来のまち



開催日 令和8年 2月11日(水・祝)

時間 14:00~16:30

会場 オンワード樺山仙台ビル10階ホール
仙台市青葉区二日町12-34

当日のプログラム

第1部 話題提供
14:05~14:40

誰もが活躍できる
地域づくりと町内会への期待
~多様性を取り入れた
持続可能な活動に向けて~

一般財団法人ダイバーシティ研究所
代表理事

田村 太郎 氏

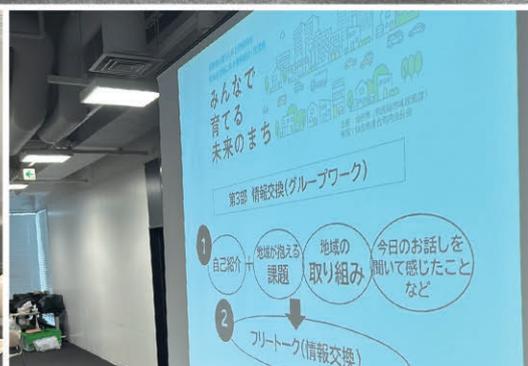
第2部 活動事例発表
14:40~15:30

発表団体

- ①高砂北上町内会
- ②荒町地区連合町内会
- ③市名坂東町内会

第3部 情報交換会
(グループワーク)
15:40~16:20

参加者が10グループに分かれ、
「地域で抱えている課題、取り組
んでいること」を中心にさまざ
まな情報交換を行いました。



誰もが活躍できる 地域づくりと町内会への期待

～多様性を取り入れた持続可能な活動に向けて～

一般財団法人ダイバーシティ研究所 代表理事
仙台市ダイバーシティ推進会議委員

田村 太郎 氏

阪神・淡路大震災での外国人住民被災者支援を機に「多文化共生センター」を設立。社会起業家を目指す若者のためのビジネスコンペ「edge」を主催。自治体国際化協会参事として多文化共生事業を担当。総務省「多文化共生推進プラン」の策定に参画。東日本大震災を受け、内閣官房「震災ボランティア連携室」企画官に就任。2014年より「復興推進参与」。



多様性への配慮について

私は阪神・淡路大震災の際、被災した外国人の方に情報が届かない状況を目の当たりにし、多文化共生やダイバーシティの活動など、「さまざまなちがいに配慮のある社会」をつくる取組を進めてきました。ダイバーシティは単に「多様である」ということではなく、さまざまなちがいを受け入れ、互いに対等な関係を築きながら社会全体として調和していくことを意味します。地域には性別、年齢、国籍、障害の有無、経験や価値観など多くのちがいがあります。問題はちがいそのものではなく、特定の立場の人だけで物事が決められてしまい、気づかないうちに誰かが不便や不利益を抱えてしまうことです。例えば日本では右利きの人が多いため、道具や設備の多くが右利き中心に作られています。その結果、左利きの人には不便を感じる場合があります。これは誰かが意図的に差別しているわけではなく、多数派の視点だけで道具などを作ってきた結果です。地域の運営でも同じことが起こり得ます。だからこそ、さまざまな立場の人の声に耳を傾け、地域のルールや活動を時々見直ししながら、皆で決め、皆で守る仕組みをつくるのが大切です。

「ちがい」に寛容な社会が求められる理由

これからの社会では、少数者が社会に適応する生き方を模索する社会ではなく、さまざまなちがいを受け入れ、これまでの生き方や働き方を社会全体で変えていくことが共生、ダイバーシティにつながります。

日本は少子高齢化が進み、人口が減少し、これまでのような仕組みでは地域を支えることが難しくなっています。さらに、防災の観点から見ても、多様な視点が必要です。東日本大震災や熊本地震では、避難所運営や孤立防止の場面で、特定の立場の人だけでは気づきにくい課題が多く見えてき

ました。例えば避難所では女性特有の困りごとに気づきにくかったり、仮設住宅では若い男性の孤立が問題になったりしました。これは誰かが悪いということではなく、さまざまな立場の人が意思決定に関わっていなかったことが背景にあります。多様な人が地域づくりに参加することで、新しい視点や発想が生まれ、地域の課題解決の力が高まります。また、人材の確保や地域の活力向上、信頼の獲得にもつながります。ダイバーシティは理想論ではなく、これから地域が持続していくための重要な条件なのです。

多様な人が参加する地域づくりに向けて

これからの地域づくりでは、町内会だけで課題を抱え込むのではなく、大学、NPO、企業など多様な主体と連携していくことが重要です。全国にはさまざまな取組があります。例えば外国人の多い地域では、子どもの学習支援をきっかけに保護者の相談を受ける仕組みを作ったり、複数の自治会が協力して地域の拠点施設を運営したりする事例もあります。また、防災の分野では地域住民が資格を取得し、宿泊型の避難所運営訓練を行うなど、さまざまな人が関わる取組も広がっています。

重要なのは、地域の現状を共有し、数年後にどのような地域を目指すのかという目標を定めて、少しずつ改善を重ねていくことです。そこでは、当事者の声を聞き、実際に参加してもらうことが欠かせません。男性、女性、高齢者、若者、外国人など、さまざまな立場の人が関わることで、誰にとっても居心地のよい地域が生まれます。社会は大きく変化していますが、それは同時に新しい地域づくりのチャンスでもあります。「誰一人取り残さない」という視点を大切にしながら、多様な人が安心して暮らし、活躍できる地域社会を築いていくことが求められています。

第2部 事例発表

高砂北上町内会

会長 杉崎 博子さん 婦人部長 吉澤 ひとみさん

老若男女が得意分野を持ち寄って ～小さなサロンの雑談から地域の課題解決～

高砂北上町内会は約410世帯で、戸建てとマンションが混在。高齢化が進む一方で若い世帯も増え、世代交代の時期を迎えています。まず月1回のサロンを始め、お茶を飲みながら気軽に語り合う場をつくりました。口コミで参加者が増え、裁縫サロンなど新たな活動も誕生。さらに「北上ふれあい広場」を開催し、焼きそばやゲームで大人も子どもも集う交流の場を実現しました。顔の見える関係づくりを大切に、世代を超えて支え合う地域づくりを進めています。



荒町地区連合町内会

会長 武川 由美子さん 役員 鈴木 純子さん

学生ボランティアが地域に笑顔を ～行事をけん引する学生、つなぎ支える町内会～

荒町地区連合町内会は「社会福祉」を柱の一つに、9年前から地域サロン「すまいる食堂」を運営しています。こども中心に始まりましたが、現在は高齢の方々も参加する交流の場になりました。東北学院大学の学生や地域の小・中学生が調理や配膳などを手伝い、交流が広がっています。さらに大学生による学習支援活動も生まれました。これからも世代を超えた活動を通じ、誰もが支え合い、将来の担い手が育つ居心地のよい地域づくりを目指しています。



市名坂東町内会

会長 草 貴子さん 副会長 畑中 文子さん

それぞれの持ち味を活かして ～みんなで話し合い、無理なく続ける町内会運営～

新興住宅地の町内会として平成20年に発足。現役世代が多い地域のため「できる人が無理なく関わる」運営を基本に、女性中心で活動を始めました。役員会は月1回短時間、欠席もお互い様とし、得意分野で役割分担。「家庭第一」で欠員補充は行わず柔軟に継続しています。防災を意識した集会所整備や子育て支援活動にも取り組み、世代を超えた交流と地域のつながりづくりを進めています。近年は男性役員も加わり、多様な視点でより開かれた町内会運営を目指しています。

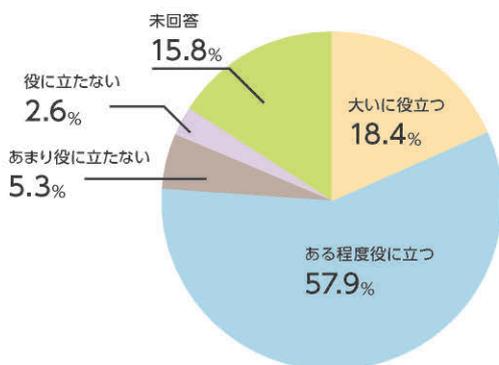


第3部 情報交換会グループワークでの声

- 総会をバスツアーと同時開催することで、こどもから年配の方まで広く参加し交流が図れた。
- 外国人世帯を町内会に取り込むため、住民票の見方を学ぶ勉強会や料理を持ち寄ってのお楽しみ会などで交流を図る予定。
- ゴミ集積所周りなどで推進員とメイト（推進員の補助）が巡回。折りたたみ式のゴミボックスを3年計画で入れ替えるなどの事例を共有。
- 休会を考える参加者へ「解散・休会より継続の方が難しいが、緩やかなつながりを維持することが重要」「近隣町内会や連合町内会と連携して応援を求めては」などさまざまな助言が寄せられた。
- 役員任命について、将来に役員になってもらうことを見込んで、サポーターとして参加してもらう制度を提案。
- 町内会は、支援を必要とする住民を適切に支えられる体制を維持することが本来的な役割であることを再確認。
- 仙台市のデジタル化推進事業で専門家のサポートを受けられることを共有。
- 地域で回覧板を回せない世帯のために、ホームページなどデジタル化の準備を進めている。
- 町内会活動では、小・中学校が利用できるので集会所のない町内は活用してほしい。
- グループワークでは各町内会の取組や課題について共有できた。

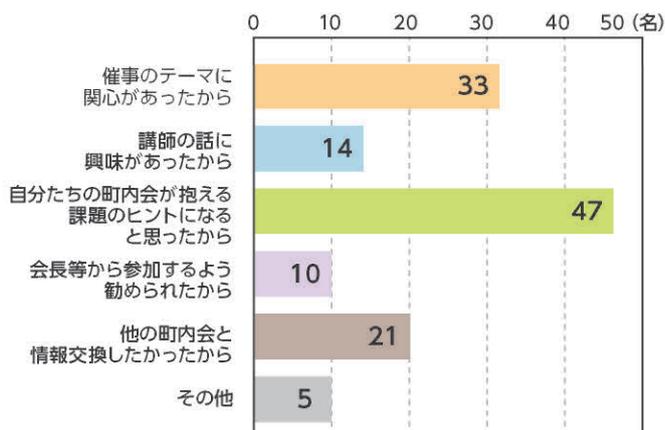
アンケート（回答者数：76名）

今回のイベントは今後の町内会活動に役立つと思いますか？



- お話の内容から自分たちの事業の見直しのきっかけとなったし、再確認することができた。
- 高齢化が進む中で、町内会役員の担い手不足が深刻。多世代型、多様性に向けた町内会活動いかに実践するかが課題。そのヒントを探っている。他事例を入手することで参考としたい。
- 困っていることを聞いてもらえただけでも抱えなくていいんだと思うことができた。
- 各町内会の事例や情報交換はとても役立つ。

参加の目的・きっかけは？（複数回答）



- 各々町内会のやり方を発表してくれたので参考になることが多々ありました。
- ダイバーシティの意味、展開していく過程を知ることができた。
- 町内会活動の中でいろいろな事例に接することは引き出しが増えるので今後も参加していきたい。
- 外国人の会員がいるので、町内会活動に参加できるよう働きかけたい。

お問合せ

仙台市市民局 市民活躍推進部 地域政策課

TEL.022-214-6129 FAX.022-214-6140 E-mail,sim004070@city.sendai.jp

情報交換会に関する情報や当日の活動事例発表資料はホームページからご覧いただけます。

URL <https://www.city.sendai.jp/chiikisesaku-kikaku/kurashi/manabu/chiikikatsudo/jire/mirai.html>

仙台市 地域活動の事例



で検索